からしだね

2023年4月号
(591号)

キリストの受難 カトリック池田教会
主任： 中村克徳司祭
住所： 〒563-0041　池田市満寿美町9－26
TEL ： 072-751-2400　FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm

本号の記事の主題など

巻頭言「ミサ典礼は天と地が共同でささげる聖なる祭儀である」中村克徳 神父

野田正弘神父様による四旬節黙想会

４月のガラスケースのみ言葉と解説

御受難修道会日本準管区長 染野司祭のミサ

評議会議長の就任にあたって

総務委員会からのお知らせ、3件

２月の大人の日曜学校だより

宝塚黙想の家からのお知らせ

今月の表紙の絵について

巻頭言

ミサ典礼は天と地が共同でささげる聖なる祭儀である

中村克徳 神父

寒い冬も終わりを迎え、各地から桜の開花を知らせる春の季節を迎えました。残念ながら聖なる三日間（聖木曜日の「主の晩餐」の御ミサから、復活の主日の御ミサまで）には、五月山の桜は見頃を終えているかも知れません。古くから教会では、この聖なる三日間を神様が与えてくださる最高の恵みの時であると伝えてきました。コロナへの感染対策も緩和されたことで、この三日間はぜひとも皆様とご一緒に主の過越しの神秘をお祝いできることを願っています。そこで今回は、東方典礼の教会に古くから伝わる御ミサにまつわる興味深いお話をご紹介いたします。

かつて、寒い冬の朝早くに御ミサをささげるのを嫌がる司祭がいました。外の気温は零下10度です。そんな日は、聖歌隊の人しか教会に来ないことを彼は知っていたのです。この司祭は、天上の教会と地上の教会との交わりについて、また御ミサが生きている人と亡くなった人とにどのような恵みを与えるかを教えている、教会の聖なる伝承をまったく知りませんでした。重い足取りでしぶしぶ聖堂に向かう途中で、彼は「聖歌隊さえ来なければ、こんな寒い朝に御ミサをせずに済むのに…」と考えていました。しかし、彼の願いは空しく、聖歌隊がやって来たのです。

彼は大急ぎで準備をして御ミサを始めました。するとほどなくして、司教と司祭、修道士と修道女、そして数名の信徒が聖堂に入ってきました。彼らのほとんどは聖歌隊席に座り、凍てつく寒さや やるせなさを忘れてしまうほどの美しい聖歌を歌い始めたのです。彼は、全身が炎に包まれたかと思うほどの温かさを感じていました。ふと全体を見渡してみると、いつの間にか聖堂が人々でいっぱいになっていることに気がつきました。その大半の人々は彼が良く知っている信者さんたちだったので、彼はあまり気を留めることなく御ミサを続けたのです。

いざ「聖別（聖変化）」の瞬間に取り掛かろうとした時のこと、彼は輝くような明るい祭服を纏った3人の司教が聖なる祭壇に上がってくるのが目に入りました。彼らは彼と一緒にひざまずき、聖別の祈りを共に祈りました。それから彼は恐る恐る慎重に立ち上がり、香炉を手に取って大きな声で次のように祈ったのです。「とりわけ、わたしたちすべての聖なる、無原罪の、最も祝福された輝かしい神の母である永遠の聖母マリアを…」。その時、彼の霊魂は驚くような、神聖な喜びに満たされました。あたかも天が舞い降りてきたような平和と静寂が彼の心を支配していたのです。

御聖体を高々と上に掲げた後で、聖なるパンを裂くとき、教会全体は最も甘い聖歌のメロディーに包まれました。司教、司祭、修道者と共に御ミサに与っていた大勢の人々は、「聖なる方、主イエス・キリスト、父なる神の栄光のために。アーメン」と何度も繰り返し唱え続けました。

御聖体拝領の際に、彼は少し迷いました。「どうしようか。先に御聖体をいただくべきか、それとも3人の司教様たちが拝領してからにしようか…」。すると司教の一人が頷きながら、「先に御聖体を拝領しなさい」と指示しました。

彼が先に拝領し、御聖体を授けようと目をやると、なんと聖堂には誰もいなかったのです。祭壇周りいたはずの司教たちの姿もなく、彼は言葉を失ってその場に立ち尽くしてしまいました。我に返った司祭は、ゆっくりと祈り始めました。「神を畏れ、信仰と愛をもって、わたしに近づいてください」と。すると、どこからともなく人が現れて彼に近づき、次々に御聖体を拝領していきました。司祭はようやく気がついたのです。彼らは既にこの世を去った人々でした。彼は御ミサをささげる度に彼らの永遠の安息を祈り続けていたのです。その人々は、地上の教会にではなく、天上の教会に属していたのでした。

祭壇で一緒に祈った３人の司教は、聖ヨハネ・クリゾストモス、聖バジリオ司教、神学者聖グレゴリオという、教会を代表する大聖人たちでした。彼は長年に亘り寝る間も惜し

んで神学の研究に明け暮れていましたが、この日の御ミサのような甘美さと、学問を超えた聖なる知識を決して味わったことはありませんでした。

野田正弘神父様による四旬節黙想会

３月５日四旬節黙想会が豊中教会の野田正弘神父様をお迎えして行われました。大阪弁の親しみやすい語り口で神父様の語る物語にすっかり魅了されました。

第一講話（ミサの中の朗読も物語として）

＊祝福について

今日の第一朗読（創世記12・１～４a）で祝福の源となるようにということが重要だと思います。アブラハムは祝福の源となるように神から使命を受けましたがこれは私たちの使命でもあります。祝福の反対は呪いです。今は呪いの時代といってもいいでしょう。トランプ前大統領はどれだけ相手をおとしめられるかというネガティブ・キャンペーンをくりひろげました。

こういう時代だからこそ私たちは呪いの反対の祝福、相手の幸福を願うことが大切です。英語で祝福は、ベネディクションといいます。“ベネ”は、よい、“デイクション”は、言う、ということです。アブラハムの使命は人を祝福すること、つまり、「あなたがいるということが良いことなんだ」と言うことでしたが、私たちにもその使命があたえられています。創世記の中で神は創られたものを「よし」とされました。神さまがよしとされたものをわたしたちが悪いということは僭越です。

＊「いいと思ったことは口に出す、または手紙に書く」

印象に残っている新聞記事があります。それはこういう記事です。ある人の小学生の妹に荷物がとどきます。妹も心当たりのない荷物であけると新しい文房具セットが入っていました。それは日ごろ食べているヨーグルトの会社からでした。妹は新製品がでておいしかったのでそのことを手紙に書いて会社におくったのです。会社の人たちは日ごろクレームの手紙がほとんどだったので少女の手紙をたいへんよろこび、自分たちでお金を出しあって文房具をプレゼントしたのです。私たちもいいと思ったことは口に出す。できたら手紙に書いて祝福の源となることが大切です。

＊主の変容

今日の福音（マタイ 17・1～9）は、主の変容の個所で四旬節第二主日にいつも読まれるところです。私は葬儀の時にここを使うときがあります。死後わたしたちはどうなるのか。イエスは高い山に登られたと書いてあります。聖書で山は神様のいるところ、つまり神様のところへ行く。そしてそこで反対に海は悪魔のいるところとされています。新約でイエスが湖を歩かれるところがあります。ペトロたちは舟にのっていて（舟は教会のシンボルですが）湖の上を歩いてイエスのところに行こうとします。イエスの目を見つめているときは湖（悪）にのみこまれませんが目をはなすとのみこまれます。イエスは、またこの変容の個所でモーセとエリヤに会います。これは私たちも死後、先に死んだ人たちと神様のところで出会うということです。それをはげましとして十字架のみちを苦しいけれど歩んでいきましょうという理由で、第二主日にこの箇所が選ばれているのです。

第二講話　　「物語を通して語る神」

＊小説「塩狩峠」を通しての回心

私は定時制高校に通いながら三洋電機で7年勤めました。会社では冷蔵庫のコンプレッサーをつくる仕事をしていました。一生の仕事としては楽しくないと考え、一部分をつくるのではなく全体をつくる仕事をと思ってパン屋に就職しました。３年やると一応できるようになり物足りなく感じ、仏教大学の通信制の教育学部を卒業し、小学校教諭免許をとりました。また２０歳のころ私は自己中で付き合っていた彼女にふられました。何で嫌われたのだろうと考えているときに「塩狩峠」を読みました。これは実際にあった鉄道事故をもとにしてかかれた物語です。

主人公の永野信夫は乗っていた蒸気機関車が塩狩峠の頂上にさしかかったとき、連結から離れて暴走しはじめた客車を自分の体を横たえて止めました。こんな人がいるのだと驚きました。永野信夫もはじめは自己中だったのがキリスト教に出会って変わっていったと書かれていました。そこで私も聖書を買って読んだのですが、全く意味がわかりませんでした。職場に信者の人がいて三国教会に行くようになり、入門講座を受け、土曜学校の手伝いをするようになりました。洗礼を受けていないのに教えるのはどうかといわれ、８月の被昇天の日に洗礼を受けました。

そのころに通信制の大学を卒業して小学校の先生になるという道もありましたが、神父のほうが足りないので求められる方に行こうと思いました。神父になったら必要だと思い、心理学の勉強もしました。フランクルの「夜と霧」を訳した霜山徳爾先生の講義を聴くことができました。先生は人間の心を聞く前に自然の心をきくことが大切だといわれました。自然は正直だけど人間はそうではない。今日の午後に死のうと思っている人も朝には元気そうにしていることがある。表面にだまされずにそれを見いだすことが大切だと言われました。

＊大自然を通して語りかける神

わたしの好きな話に「リリーちやん」の話があります。リリーちゃんはアメリカへの移民で両親を早くに亡くしました。橋の上から死のうと思ったときサーカスのテント小屋が見え、そこの呼び込みのマリオネットに出会いました。マリオネットは人形なので話しやすく死にたいと打ち明けました。マリオネットはサーカスで働くように誘いました。サーカスではみんながやさしくリリーちゃんは楽しく働きましたが、団長さんだけは怖くて苦手でした。ある日いつものようにマリオネットと話していると、強い風が吹いてマリオネットの後ろのカーテンがめくれあがり、自分に話かけてくれていたのはあの団長さんだとわかりました。このようにわたしたちも野の鳥や花を見てそのうしろにいる神様をみること、大自然を通して神様をみることが大切だと思います。

＊「ヨセフ物語」と「ハイジ」が語る神の摂理

私は、旧約聖書のヨセフ物語（創世記37～）が好きです。ヨセフはヤコブの11番目のこどもで特別かわいがられていたため、兄たちに妬まれエジプトに売られました。エジプトでも牢に入れられたりすることがありましたが、その能力をみとめられるようになりました。兄たちは自分たちの国で飢饉（ききん）があり、エジプトに助けをもとめに行き、弟のヨセフと気づかずに会います。ヨセフは自分の弟ベニヤミンがいることを知り、連れて来るようにいいます。ヨセフはベニヤミンが銀の杯をとったように細工し、とらえようとします。その時、兄は身代わりになるのでけっしてベニヤミンをとらえないように懇願します。自分のときと違って、こころを入れかえた兄にヨセフはこころを動かされます。そこでヨセフは兄に自分がヨセフであることをあかします。兄はあの時ヨセフを売って申し訳なかったとあやまります。しかしヨセフは私を売ったのはあなたたちではなく、神様が今日の日のためになさったのだといいます。神様は長いスパンでわたしたちのことを考えてくださっています。わたしたちも今つらいことがあってもそのむこうに神様のご計画があると信じて乗り切りましょう。

これはアルプスの少女ハイジの原作にも反映されています。アニメが有名ですが原作を読んでほしいと思います。原作の中にヨセフ物語がどう反映されているか見ましょう。ハイジは足の悪いクララの話し相手になるように、山をおりてフランクフルトに行くように言われます。ハイジは山にいるおじいさんのところに帰りたくて仕方がありません。そのような時にクララのおばあさんから祈りは必ず聞き入れられると教えられます。そして読み書きができないハイジに字を教えます。山に帰れるようにハイジは祈りますが、聞き入れられないので祈りをやめます。しかし、おばあさんは神様は必ず聞いてくださるから祈り続けるようにいいます。ハイジはとうとう夢遊病になって山に帰ることになります。おじいさんのところに帰るまえにペーターのおばあさんに会いにいきます。おばあさんは目が見えなくなってお祈りの本が読めなくなっていました。字が読めるようになったハイジはおばあさんのために本を読んであげます。その時ハイジは神様が字を読めるまで待ってくれていたのだとわかり、まわりの人にとって一番いい時に祈りを聞いてくださったのだと悟ります。

＊生きるとは

黒澤明監督の「生きる」という１９５０年代の映画があります。主人公の男は長年、市役所で働いていましたが胃がんであることがわかり、命が残り少ないと悟ります。今まで「生きる」ということを実感していないと、キャバレーに行ってみたり賭け事をしてみたりしますが実感が得られません。そんなとき前に同じ職場で働いていた女の子に会い「課長さんも何か作ってみたら」といわれます。彼は市民から公園建設の陳情があったのを思い出します。子どもの笑顔のために奔走します。これまで自分のために生きていたが、人のために生きるということに気づいたときに、彼は本当に「生きる」ということがわかります。私たちも人のために生きようと思ったときに「生きる」ということが実感できます。（この映画をもとにカズオ・イシグロが脚本を書いたイギリス版「生きる」の「living」が３月３１日から上映されます。）

私たちの暮らす日常には必ず物語があります。そして物語の向こうには必ず神様がおられ私たちをも守ってくださっています。そのことを意識して日々を過ごす事の大切さをこの黙想会を通じて学ぶことが出来ました。野田神父様、ご指導いただき有難うございました。

研修委員会

４月のガラスケースのみ言葉

イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください

ルカ 23 章 42 節

４月のみ言葉についての解説　　中村克徳 神父

皆さんは、自分の死について考えたことがあるでしょうか。死後の財産分与や部屋の整理について思い巡らし、具体的な準備に入られる人はおられることと思います。そうであっても、健やかに過ごせているならば、ほとんどの人は自分の死を意識しないものです。もし突如その時がやってきたとすれば、わたしたちはどのように自分の死を受け入れたらよいのでしょうか。

2000 年前のゴルゴダの丘で、イエス様と一緒に二人の強盗が十字架につけられました。彼らは自分の罪のゆえに刑罰に服していることに納得せず、死を受け入れようとはしませんでした。二人とも、イエス様を十字架につけた祭司長や律法学者たちに焚きつけられるかのように、イエス様を罵ったのです（マルコ 15 章 32 節）。

ゴルゴダの丘は騒然とした雰囲気に包まれ、イエス様を罵る人々の声は収まることなく、罵詈雑言と嘲笑がその場を支配していました。人々のありとあらゆる悪態を一身に受け止めていたイエス様は、彼らを咎めず父なる神に次のように祈ったのです。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」しかしながら、それは人々の憎悪に一層火を点けることにしかなりませんでした。

苦痛に耐えかねた二人のうちの一人が声を上げました。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、その言葉を聞いたもう一人は、まったく異なる反応を見せたのです。彼は神の前に自分の非を認め、罪もないのに同じ刑罰を受けているイエス様に向かってこう言いました。「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」。イエス様の答えは簡潔なものでした。「あなたは今日、わたしと一緒に楽園にいる」。

最初はイエス様を罵っていたこの人の上に、いったい何が起こったのでしょうか。おそらく彼は、自分の人生を振り返っていたのでしょう。神と人々に対して死に値する罪を犯してしまったことに気がつき、自分が置かれた状況を真摯に受け止めたのです。そして、人々の悪しき策略によって共に刑に服しているイエス様の深い信仰を目の当たりにして、一縷の望みを抱いたに違いありません。彼は直接的に救いを求めるのではなく、遜（へりくだ）った態度をもって「わたしを思い出してください」と告げたのです。彼の回心と遜った態度は、神から赦しと最高の恵みを引き出すこととなりました。

12 世紀のシリアで活躍したダマスコの聖ペトロは、回心について次の教えを遺しています。

「回心によって、新しいスタートを切ることはいつでもできます。もし再び倒れたなら、もう一度立ち上がりなさい。何があっても、自分の救いに絶望することがないようにしなさい。敵（悪魔）に進んで身を委ねない限り、あなたの辛抱強い忍耐と痛悔の思いによって、あなたの救いは確実なものとなるでしょう。

神の助けをないがしろにして絶望してはなりません。神は試練や誘惑を通して、あるいは神のみぞ知る別のやりかたによって、あなたに回復をもたらすでしょう。あなたが辛抱強く試練を耐え忍び、遜って神に立ち帰ることを望むのなら、速やかに愛をもって導き、（悪魔に）囚われているあなたの霊を救ってくださいます。あなたを癒してくださる神がおられることを、決して忘れないでください。」

わたしたちもこの教えを実践する者となることができますように、遜って回心の恵みを祈り求めましょう。

日本準管区長(染野治雄司祭）が四旬節第一主日のミサを司式

2月25日の池田教会のミサ司式司祭は数日前に御受難修道会日本準管区長になられた染野治雄司祭でした。染野司祭は四旬節第一主日の福音（マタイによる福音書の4章1節～11節）を朗読されて、この四旬節を聖霊に導かれて道標のない荒野を洗礼志願者や既に洗礼を受けた方々と共に一緒に過ごすことによって、これまでの生き方で罪を成したならば、回心して、神さまの愛に生きる新しい人間に生まれ替わって、イエス様が体験された変容を遂げましょうと会衆に向かって述べられました。

人間であるわたしたちは、この世で戴いた自由のために誘惑にそそのかされて、アダムとエヴァのように自己中心的な振る舞いによって罪を犯します。加えて、聖書には書いていないが、イエス様にとっても私たちを導くために荒野において神の愛を信じて歩むことが必要であったのだろうと想像する、と染野神父様は述べられました。イエス様であってもそうであるなら、わたしたち人間は荒野になりがちなこの世で誘惑を克服する経験を積み重ねるならこの世はいつか悦びに溢れるやもしれません。

教会は大きな家族　一人ひとりが大切　　評議会議長　中路ますえ

2023年度評議会議長に信任されました池田Ｉ地区の中路です。

評議会のメンバーになるのは10年ぶりぐらいで、以前地区委員会と福音宣教委員会を経験したことはありますが、1年前にマイヤーさんから副議長の話をいただいた時に議長という大役は私の能力の範疇を超えていることはわかっていますので、悩み、祈りました。

そしてその結果、あろうことか引き受けてしまいました。毎年の副議長選出の困難さを見聞きしているので、元気だけが取り柄の私ですが、あえて難しいことにチャレンジしようと思ったのです。

どうぞ、ご支援とご協力をお願い致します。

今年度の検討課題

①信徒の高齢化への対策について。

②日常的な教会活動の**担い手の欠員対策について。**

③老朽化するカール記念館の身の丈にあった補修について。

どんな時も聖霊の恵みに感謝し、喜びのうちに活動できますように。

総務委員会からのお知らせ３件

・名札をつけよう

池田教会でミサに授かる方は名札を付けるようお願いしています。

名札は以前お配りしていますが、もらっていない方や無くしてしまった方は総務委員会の四倉または閑歳までお知らせくだされば作成します。ある程度数がまとまった段階で印刷しますのでお手元に届までしばらく時間をいただくかと思います。よろしくお願いします。

・駐車場の利用について

教会へ自家用車でお越しの際は各駐車場をお使いいただいて結構ですが、教会に自家用車で来られる方は総務委員会で管理をしています。そのため届け出が必要です。受付完了後にはダッシュボード上へ掲示する名前のプレートをお渡ししますので必ず掲示をお願いします。

・幼稚園の駐車場利用について

幼稚園の園庭を今までのように駐車場として使用できないかとの問い合わせがあります。確かにコロナ禍前まで幼稚園園庭を駐車場として使用させていただいてきました。しかし、先日の評議会でも説明し承認を得ましたが、現状の駐車可能台数で若干あふれる場合があるものの何とかやっていけている事、園庭のカギの開け閉めやカギや扉を開けたままにしている間の安全管理等を考えると総務委員会ひいては教会で責任を取ることが出来ない事態にもなりかねないとの判断から、今後も園庭を駐車場としてお借りすることを控えることにしました。なお、主日のミサより多くの来場が見込まれる復活祭やクリスマスのミサ等については事態がいろいろ落ち着きましたら特別に幼稚園側に許可を得て、園庭を駐車場としてお借りする可能性も検討していきたいと考えています。

２月の大人の日曜学校だより　　研修委員会

a年年間第４主日（1月29日）
マタイ　5・1～12

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子とよばれる」

今の世界の情勢より、平和の尊さを伝えていくことの大切さを分かち合いしました。今、この瞬間を大切に平和を実現できる人でありたいと思いました。

「腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄ってきた」

イエス様の言葉を聞きたい!と近寄っていく弟子たちの姿と今の私たちの姿と重なります。イエス様が私の前で座られたら、何を語って下さるのだろう。

「心の貧しい人々は、幸いである」

「心の貧しい」という言葉がどうして自分に響くのかじっくり見つめると、自分の心の内の乾きと重なります。

自分の力ではどうしようも無くて途方に暮れた時、自分の無力感を痛いほど感じた時、自分の魂が何を求めているのかわからずカラカラになってしまう時、自分でもがいてももがいても、苦しみは変わらない時・・・。

そこで、神にすがり求めるしかないことに気づかされます。そして、「心の貧しい人々は、幸いである。天の国は、その人たちのものである」と。何という恵みでしょう。

宝塚黙想の家からのお知らせ

■ 日帰り黙想会 10：00～15:30
4月27日(木) 指導：染野 治雄 神父
4月28日(金) 指導：山内 十束 神父

■ 一泊黙想会
4月20日(木) 17:00～21日(金) 15：30
指導：染野 治雄 神父

■ カトリック教会のカテキズム
4月12日(水) 10:00 ～ 12:00
4月26日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：染野 治雄 神父

■ 聖地エルサレムを学ぶ
4月13日(木) 10:00～12:00
指導 ： 笹田六合豊 修道士

■ 聖書の基本
4月 5日(水) 10:00 ～ 12:00
4月19日(水) 10:00 ～ 12:00
指導：山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797（84）3111

今月の表紙の絵について

4月2日、受難の主日（枝の主日）より、一年の中でもっともイエス様を身近に感じる聖週間が始まる。6日の聖木曜日（主の晩餐）にはヨハネによる福音の13章1節から15節までが読み上げられる。「さて、過ぎ越し祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移るご自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」イエスは食事の席を立ち、シモン・ペトロの足を洗い始められた。弟子たちの足を洗い終わると、その行動の持つ意味について教えられた。弟子たち、わたしたちも、イエスにならって互いに足を洗い合う謙虚さを持たなければならない、さらに事が起こったとき、イエスが「わたしはある」という存在であることを、あなたがたが信じるようになるためである、と。

洗足式のもようを描いたのは、ディトリウ・ブルンク（1798～1853）。この作品はキャンバスに油絵の具で1831年に制作された。現在はドイツ北部シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州にある都市、フレンスブルクのフレンスブルク美術館に収蔵されている。

編　集　後　記

新型コロナ感染症による昨今の状況を鑑みてか「マスクの脱着は個人の任意・判断とする」。他に但し書きがあるものの、初めに日付を決めて発表された。政治外交絡みであることの前に、現在医療の現場はどうなっているのか、単に感染者数だけの問題で良いのだろうか。と疑問に思った。

腑に落ちない気持ちを持ちながらも、来るべき酷暑を迎えると今年はマスクなしでも良かった、と思う自分がきっといる。

（天使の微笑）